

農林技術開発センター 研究概要一覧 (H22年度)

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
1	国庫受託(農林実用技術開発)	ツバキの新機能活用技術及び高生産性ツバキ林育成技術の開発	五島地域に豊富に自生するツバキを使った自治体等が取り組む地域振興策を支援し、地域活性化の一翼を担い貢献することを最終目的とします。具体的には、これまでのツバキ油のイメージとは異なる新たなツバキ油の製造法を開発するとともに搾油副産物等の用途を開発し製品化を検討します。ツバキ実生産性の高いツバキ林への誘導技術を開発し、マニュアル化します。	H20~22	9,600	森林研究部門 食品加工研究室 茶業研究室
2	国庫受託(農林実用技術開発)	臭化メチル剤から完全に脱却した産地適合型栽培マニュアルの開発	(ショウガ根茎腐敗病に対する生育期処理資材の探索と実用的処理技術の開発) ショウガ根茎腐敗病に対する生育期防除において、高効果・易作業性・低コストな処理資材を新たに探索し、実用性の高い処理技術(方法、体系等)を開発します。	H20~22	1,500	病害虫研究室
3	国庫受託(農林実用技術開発)	低・未利用食品残さの高度利用技術の開発(規格外パレイショの飼料利用)	高水分、高脂質、低消化性、保存性、コストの問題等のため利用されていない食品残さの飼料としての利用技術を開発します。具体的には、排出が収穫時期に集中する規格外パレイショを安価にサイレージ化して一時貯蔵する技術、また一時保存したサイレージを給与時のハンドリングが向上するようにリキッド飼料として調製する技術の確立を図るとともに、その飼料特性を解明します。 併せて、この規格外パレイショサイレージと他の低・未利用食品残さを混合したリキッド飼料とすることで自給率向上を目指した飼料利用法を検討します。	H20~22	2,800	中小家畜・環境研究室
4	国庫受託(農林実用技術開発)	パッケージセンターと局所環境制御技術を活用した大規模高収益イチゴ経営モデルの構築	イチゴのパッケージセンターを活用し、次世代型の大規模で収益性が高い経営モデルを構築するため、九州沖縄農業研究センター、佐賀県、大分県、九電と連携し、イチゴの所得向上に向けた技術開発に取り組みます。 その中で、長崎県ではイチゴ高設栽培システムにおける未分化苗定植によるク라운制御技術を用いた年内収量向上と省力化技術を開発します。	H22~25	3,555	野菜研究室
5	国庫受託(プロ)	地球温暖化が農業分野に与える影響評価と適応技術の開発	(温暖化に対応した水稻の安定生産技術の開発) 水稻の慣行移植及び遅植において、各生育ステージにあった生育量を明らかにして、水管理や施肥、深耕により生育を改善し、整粒歩合を向上させます。	H22~24	2,000	作物研究室
6	国庫受託(プロ)	農林水産分野における地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発	堆肥を連用する重粘質グライ低地土畑を対象として、暗渠排水中の硝酸態窒素濃度等を長期モニタリングすると共に、堆肥の連用が重粘質グライ低地土畑からの暗渠を通じた窒素流出に及ぼす影響を明らかにします。	H22~24	1,050	干拓営農研究部門
7	国庫受託(加工プロ)	加工適性が優れ青枯抵抗性の暖地向け加工原料用パレイショ品種の開発	パレイショの暖地向けで加工適性の優れた品種を育成し、安定栽培法を確立します。	H18~22	2,400	馬鈴薯研究室
8	国庫受託(プロ)	自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発	暑熱環境下の豚では、体内の酸化ストレスが増加して増体成績、肉質、などの生産性が低下することが明らかとなっています。これらのストレスに対し抗酸化物質の投与により生産性を改善できる可能性が高いことから、ポリフェノールを多量に含む有色素米や有色パレイショ等の自給飼料を、夏季の肥育豚に給与することにより、生産性の改善を図ります。	H22~24	3,500	中小家畜・環境研究室
9	国庫受託(バイオマス)	ジャガイモ疫病抵抗性DNAマーカーの開発と利用	近年開発された疫病真性抵抗性遺伝子R2(<i>S. stoloniferum</i> 由来)に連鎖するDNAマーカーの育種における有効性を明らかにし、さらに他の疫病真性抵抗性遺伝子に連鎖するDNAマーカーを開発します。	H19~23	4,299	馬鈴薯研究室 花き・生物工学研究室
10	国庫受託(指定試験)	温暖地・暖地向け病害・線虫抵抗性、高品質、多収のばれいしょの品種の育成(育種試験・育種高度化緊急促進事業)	食味・外観・病害虫抵抗性に優れる高品質の暖地二期作用ばれいしょの新品種を開発します。	H18~22	7,743	馬鈴薯研究室
11	国庫受託(指定試験)	ピワの育種(育種試験・育種高度化緊急促進事業)	大果・高品質・良食味、早熟、高日持ち性、病害抵抗性、機能性成分高含有のピワの新品種を育成します。	H18~22	5,862	ピワ・落葉果樹研究室

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
12	国庫受託 (ジーンバンク)	ビワの増殖保存と特性評価 (植物遺伝資源の増殖保存)	ビワの優良品種・系統を遺伝資源として保存します。	H17～	900	ビワ・落葉果樹研究室
13	国庫受託	指定試験(系統適応性検定試験・特定検定試験)	系統適応性検定試験:九州沖縄農研センター及び作物研究所から配付される約20系統について適応性を検定します。(かんしよ、牧草、ソルガム) 特性検定試験:①特麦類の育成系統のうどんこ病抵抗性 ②かんしよの育成系統の黒斑病抵抗性 ③ばれいしよの育成系統の青枯病抵抗性	S35～	2,199	作物研究室 馬鈴薯研究室 畜産研究部門
14	国庫受託	発生予察調査基準の新規手法策定事業(イチゴ)	品種「さちのか」を主にイチゴ炭疽病の発生消長や被害状況等を調査し、発生程度別基準を設定するための調査項目を検討します。	H22～26	500	病害虫研究室
15	国庫補助(システム化) (林務課) 県単(経常)	人工林資源の循環利用を可能にする技術の開発ー育林初期コスト低減と下層木誘導ー	伐採後の植栽から下刈り作業までの育林初期のコスト低減技術と、林地生産力を向上するため下層木の効率的な誘導技術を開発します。 (内国庫509千円)	H21～25	1,019	森林研究部門
16	国庫補助 (食の安全安心)(農業経営課)	人と環境にやさしい農業対策事業	①対馬カドミウム汚染地の改善調査 ②CODEX対応のための麦、大豆のカドミウム含量調査	S62～	200	馬鈴薯研究室 土壌肥料研究室 野菜研究室
17	国庫補助 (食の安全安心) (農業経営課)	土壌機能増進対策事業	土作りを基本とした環境保全型農業技術の確立と、バイオマス資源の循環利用を図ります。①県内195ヶ所の定点を設け、5年毎に同一地点ほ場の土壌調査を行うことで農耕地土壌の変化を追跡する土壌機能実態モニタリング調査。②水田、畑で家畜ふん堆肥を長年にわたり連用することでの土壌の地力増強効果を追跡し、化学肥料との併用技術を明らかにする有機物資源連用栽培試験。③堆肥を施用した場合の化学肥料の節減効果などの環境保全型栽培技術を実証する施用基準等設定栽培試験、④環境保全型土壌管理調査。⑤Cdによる土壌汚染防止対策解除地域の調査。⑥Codex対応のための畑作物のCd調査。	H10～	2,748	土壌肥料研究室 野菜研究室 馬鈴薯研究室
18	国庫補助 (食の安全安心)(農業経営課)	島原半島環境保全型農業推進対策事業	島原半島における地下水への硝酸態窒素負荷低減のための畑地への堆肥施用や肥培管理技術を明らかにします。	H18～22	2,293	土壌肥料研究室 野菜研究室
19	国庫・農業環境研究所受託(農業経営課)	土壌由来温室効果ガスイソペントリ情報等整備事業	水田等における稲わらすき込みから完熟堆肥施用への転換促進を図るとともに、京都議定書の次期対策に向けた全国規模の農地土壌炭素や有機物管理状況の実態調査を実施します。	H20～	2,820	土壌肥料研究室 干拓営農研究部門
20	国庫補助 (諫早湾干拓室) (農村整備課)	経営体育成基盤整備事業・県営畑地帯総合整備事業(ほ場整備地区土壌調査)	土地改良実施地区の土壌調査、理化学分析を行い、さらなる農産物生産性向上のために施行にあたっての意見を農村整備課へ提出します。		2,800	干拓営農研究部門 土壌肥料研究室
21	受託	新除草・生育調節剤適用性判定試験	新しく開発された除草剤、生育調節剤の配布を受け、効果及び作物に対する安全性を検討し、実用化の可能性を判定する。有望な薬剤については、更に試験を実施して、本県の雑草防除基準への採用や基準技術策定の際に基礎資料として活用します。	S38～	2,460	作物研究室 花き・生物研究室
22	受託	施肥合理化技術の確立	農作物の養分吸収に応じた施肥法を検討し、環境保全型施肥技術を確立します。①水稲「にこまる」において肥効タイプの異なる緩効性肥料を用い収量と品質が確保できる施肥法と減肥率の検討、②スイートコーンの施肥量を低減し、収量性を損なわないような施肥方法の検討	H12～	516	土壌肥料研究室
23	受託	病害虫防除新資材の合理的利用試験	本県の農作物に被害を及ぼしている病害虫で、防除効果または安全使用の面から防除法の改善が望まれているものを対象に、新農薬の効果と薬害等試験し、適正な使用技術を明らかにします。	S47～	6,991	病害虫研究室 茶業研究室 馬鈴薯研究室
24	受託	加工・業務向けしいたけ供給拡大モデル実証事業	①発生処理による増産と発生期間の短縮により、加工向けシイタケの低コスト化を実証します。 ②平戸地域の未利用森林資源を菌床培地へ混合することにより、加工向けシイタケの生産性向上を実証します。	H22	1,000	森林研究部門

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
25	受託	果樹園における植物調節剤の利用法	果樹園における除草剤の効果、植物調節剤の実用化について検討します。	S52～	67	カンキツ研究室 ビワ・落葉果樹
26	受託	カンキツ病害虫の防除法	カンキツ病害虫のより有効な防除法を確立するとともに新農薬の実用化を図ります。	S59～	1,905	カンキツ研究室
27	受託	落葉果樹の重要病害虫防除法	ナシ、ブドウ、モモなどの落葉果樹の重要病害虫に対する有効な防除法を確立するとともに、新しい農薬の実用化を図ります。	S59～	846	カンキツ研究室
28	戦略プロジェクト研究	長崎有色ばれいしょの加工品開発	当センターで育成した、アントシアニン等を含み機能性を有するばれいしょを活用し、長崎らしさとともに差別化、区別化をアピールできるような菓子製品やホテル等業務用等の加工品を開発します。また、原料の安定供給を図るための生産技術を確立します。 このことにより、県内食品産業の活性化及び生産農家の所得向上に寄与します。	H21～23	7,558	食品加工研究室 馬鈴薯研究室
29	戦略プロジェクト研究	環境FS 環境と調和した持続可能な農業・水産業の実現に資する研究	諫早湾干拓調整池の水質の保全・浄化策として、背後地における水田からの肥料流出軽減技術の開発、畑地からの土壌流亡防止技術の開発および新干拓地内における水質浄化と資源循環利用技術の開発を行います。	H22～24	14,520	土壌肥料研究室 作物研究室 馬鈴薯研究室 干拓営農研究部門
30	連携プロジェクト研究	茶葉とびわ葉を原料とした高機能発酵茶の新機能解明と実用化に向けた研究	開発した高機能発酵茶(茶葉とびわ葉の揉捻混合)は、血糖値上昇抑制作用、中性脂肪低下作用メカニズムの解明が進み、香味も優れ、安全性も問題がないとの成果を得て、大手飲料メーカーと事業化に着手することで準備を進めています。本研究では実用化に向け、新たに発見した機能性のメカニズムの解明、および、商品処方、原料の安定生産、品質管理の開発に取り組みます。	H20～22	1,550	茶葉研究室 ビワ・落葉果樹研究室
31	特別研究	おいしい「長崎和牛」の生産とブランド強化に向けた飼養管理技術の開発	牛肉の食味に係る要因を解明し、おいしい牛肉を安定的に生産できる飼養管理技術を開発します。 これにより、全国における産地間競争で優位になり、「長崎和牛」のブランド強化につながります。	H20～23	15,119	大家畜研究室
32	県単(経常)	農業気象調査	気象観測と気象データの解析を行い、農作物の生育と収穫、病害虫の発生予察等の研究の基礎資料とします。	S50～	469	研究企画室
33	県単(経常)	びわ産地の復興と経営再建のための営農計画策定・評価手法の開発	びわ産地における中長期的生産計画策定を支援する、営農資源データベースとシミュレーションツールを開発・作成し、これを活用した計画策定・評価方法を提示します。	H20～22	804	研究企画室
34	県単(経常)	施設野菜栽培環境改善技術の確立	ミストを利用したアスパラガス栽培における夏期の昇温抑制技術を確立します。また、光触媒を利用しイチゴ栽培における農薬散布回数の削減を図ります。	H20～22	917	干拓営農研究部門 研究企画室 野菜研究室 作物研究室
35	県単(経常)	稲・麦・大豆奨励品種決定調査	本県の気候土壌に適する水稻・麦の品種を選定するため、主要農作物有望系統の現地適応性を検討します。	S28～	1,076	作物研究室
36	県単(経常)	水田機能・生産要因改善	本県の主要奨励品種について、毎年同一条件下で栽培し、生育調査、分析調査を定期的実施し、作柄の予測と解析を行い、農家に提供する栽培管理情報に役立てます。	S46～	1,017	作物研究室
37	県単(経常)	環境保全・省力・低コストのための水稲疎植栽培技術の確立	米の価格低下傾向が続く中で労力の節減と、生産資材の低コスト化が課題です。疎植栽培に育苗箱緩効性肥料施用を組み合わせることで、移植に必要な育苗箱数を5割削減し、本田に元肥及び穂肥を散布する労力が稲作栽培期間中で約1割節減できる技術を開発します。	H19～22	1,112	作物研究室
38	県単(経常)	長崎県特産品に適した小麦品種育成	長崎県の特産品である長崎ちゃんぽん、五島うどん、島原手延べそうめんのブランドイメージを高めて需用拡大につながる原料小麦の新品種を育成・開発します。	H19～23	1,020	作物研究室
39	県単(経常)	御島裸の後継品種育成にむけた優良系統育成	御島裸は長崎県産麦で唯一の独自育成品種であり高級味噌原料として実需者のニーズは非常に高い。しかし、栽培特性が悪く収量が不安定なことから品種を改良します。	H20～24	1,275	作物研究室
40	県単(経常)	遺伝資源及び優良種苗の保存と配付	本県における主要農作物や特産野菜・花木、主要林木等の優良品種・系統を遺伝資源として保存し、優良種苗を配付します。	各年	594	野菜研究室 花き・生物工学研究室

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
41	県単(経常)	規模拡大を目指した露地アスパラガスの生産技術確立	本県戦略品目であるアスパラガスの規模拡大を図るため、環境に配慮した露地単年どり栽培技術(伏せ込み栽培)、機械による一斉収穫を開発し、未利用部位の加工への利用を検討します。	H22～26	3,950	野菜研究室 土壌肥料研究室 病害虫研究室 干拓営農研究部門 研究企画室 食品加工研究室
42	県単(経常)	イチゴ新品種「こいのか」(高良6号)の生産安定技術確立	新品種「こいのか」は普通ポット栽培の花芽分化時期から定植後の高温等の影響により、1・2番花のバラツキや分化の遅れが見られます。また、地上部の生育が旺盛になりすぎる傾向があります。このため、適正な草勢管理技術と安定した花芽分化管理技術を開発します。	H21～24	1,201	野菜研究室
43	県単(経常)	アスパラガス有望品種の栽培技術確立	既存品種「ウェルカム」に代わる有望品種の栽培管理技術および茎枯病の防除技術を開発します。	H21～26	1,992	野菜研究室 病害虫研究室
44	県単(経常)	施設園芸の維持管理	野菜、花きの各種課題の解決を図るため、試験研究を実施するガラス温室、ビニールハウスの適正な温度管理を行います。	各 年	440	野菜研究室 花き・生物工学研究室
45	県単(経常)	放射線と組織培養による突然変異を利用したキク・鉢物の優良系統育成	輸入花き増加に対処するため、本県の重要な花きのキクや、生産拡大を目指している洋ラン・ラベンダーについて、突然変異を利用した長崎オリジナルの品種を開発します。	H18～22	1,454	花き・生物工学研究室
46	県単(経常)	輪キクの新品種育成及び栽培技術確立	輪キクの摘芽・摘蕾作業の省力化を図るため、本センターで選抜した低温開花性の神馬系「長崎2号」からさらに半無側枝性系統を選抜します。また、燃料等コスト削減のため、生育ステージ別低温管理技術を開発します。	H21～23	1,339	花き・生物工学研究室
47	県単(経常)	カーネーションの新品種育成	長崎カーネーションのブランド力向上のため、長崎オリジナル品種を開発します。	H21～25	1,318	花き・生物工学研究室
48	県単(経常)	DNAマーカー選抜と染色体操作による野生種由来ジャガイモ青枯病等複合抵抗性育種素材の育成	暖地バレイショ栽培では、温暖化現象等の影響で青枯病が発生しやすくなり、栽培面積の減少、収量の低下、貯蔵中の腐敗増加などが問題となっています。そこで、青枯病抵抗性品種の育成のため、栽培4倍種と交雑可能な野生種由来の高度青枯病抵抗性6倍体を育成します。	H21～25	2,546	花き・生物工学研究室
49	県単(経常)	茶樹優良品種の選定並びに母樹園の設置	全国各地で育成された茶樹の有望系統の県内適応性を明らかにし、県の奨励品種決定のための調査を実施します。また、県茶業振興計画に基づく茶園の新改植に要する苗木の安定生産を図るために母樹園を設置し穂木を供給します。	H11～	853	茶業研究室
50	県単(経常)	茶園管理及び製茶工場管理(ほ場管理及び工場管理)	東彼杵茶業支場の茶園4.05haの一般肥培管理と製茶工場及び製茶機械を管理します。	S50～	7,083	茶業研究室
51	県単(経常)	多用途茶葉大量生産と簡易製茶技術の確立	一番茶の収量・品質を維持しつつ、高機能発酵茶の安定生産にむけて三番茶多収生産のための栽培法の確立と品種の選定を行います。さらに新規殺青機と既存製茶機械を利用し、生葉をより低コストで大量に処理する製茶法を確立します。	H19～23	991	茶業研究室
52	県単(経常)	ジャガイモそうか病抵抗性検定法の開発	菌種ごとに抵抗性を評価できる検定法を開発することにより各菌種に対するバレイショ系統の抵抗性を検定し、菌種ごとに有効な交配親を選定します。	H20～24	614	馬鈴薯研究室
53	県単(経常)	原木しいたけを加害するシイタケオオヒロズコガの生態解明と防除技術の開発	本県の特産物である対馬しいたけは完全無農薬で生産されていますが、シイタケオオヒロズコガの被害が表面化しています。生態の解明と無農薬による防除技術を開発する事により、安全・安心なしいたけ品質の向上と生産量の増加を図ります。	H22～24	1,185	森林研究部門
54	県単(経常)	菌根菌を活用した海岸林の造成・更新技術の開発	海岸クロマツ林の衰退により防風林や潮害防備林等の保安林の機能低下が懸念されています。そこで在来菌根菌感染苗(在来菌根菌と県産抵抗性クロマツの感染苗)等を活用し様々な生育阻害要因に高い耐性を持つ海岸林の造成・更新技術を明らかにします。	H20～24	721	森林研究部門

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
55	県単(経常)	農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究	農林業生産現場から要請があった緊急を要する技術的問題に対し関係部門からなるプロジェクトチームを編成し、現場の要請にフレキシブルに対応し早急な問題解決を図ります。そのため緊急調査、再現試験および対策試験が必要な場合は現地で対応し原因究明と応急対策の技術支援を行います。①現場要請があった緊急技術問題に対する緊急調査、再現試験、対策試験。②緊急対策の立案。③環境保全型農業推進に必要な有機物資材の分析。	H14～	184	病害虫研究室 土壌肥料研究室
56	県単(経常)	イチゴ「さちのか」難防除病害虫の制御技術確立	本県のイチゴ主要品種である「さちのか」において、安定生産の阻害要因となっている炭疽病、ハダニ類の2難防除病害虫について、新防除資材の機能開発や実用化を検討し、育苗期から本圃をとおして周年制御技術を確立します。	H20～22	676	病害虫研究室
57	県単(経常)	果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査	カンキツの主要な品種、今後有望な系統について無毒化するとともに弱毒ウイルスを接種してウイルス免疫苗を育成します。また、果樹で異常発生した病害虫や新発生した病害虫の防除対策を確立します。	S58～	855	カンキツ研究室
58	県単(経常)	ビワ新品種による超多収・良食味果実生産技術の確立	大果で良食味であるビワ新品種を早期に生産現場へ普及させるために、新品種の特性を十分発揮する生産技術を確立します。	H18～22	950	ビワ・落葉果樹研究室
59	県単(経常)	ビワ新系統の県内適応性評価	育種試験で選抜したビワの新系統について、品種登録後の県内への普及を円滑に行うため、現地等において特性調査を行い、本県に適した優良系統を明らかにします。	H19～H23	950	ビワ・落葉果樹研究室
60	県単(経常)	温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と省エネルギー型施設栽培の開発	今後も温暖化が進行すると、本県の落葉果樹は栽培適地の変動や、現在の栽培技術での栽培が困難になることが予想されるため、温暖化に伴う栽培・生理の変化のシミュレーションや対応可能な対策、新技術を明らかにします。また、施設加温栽培では化石燃料の使用が一般的であり、燃料削減のための施設保温管理法など低コスト施設栽培を開発します。	H19～23	855	ビワ・落葉果樹研究室
61	県単(経常)	長崎ブランド「させぼ温州」の特性を發揮する栽培技術の確立	「させぼ温州」は、これまでの品種以上に糖度が高く着色も優れるなど、果実品質が高まる品種ですが、樹勢が強く結実率が低いことから、産地では思うような生産量が確保できず、その対策に苦慮しているのが現状です。そこで樹体の栄養診断により安定生産に好適な樹相を解明し、樹相診断指標を作成するとともに、簡単に省力的な結実安定のための栽培技術を確立します。また高品質な果実を生産するため、根域制御等を用いた最適水分ストレス誘導技術を開発し、長崎県のオリジナル品種である「させぼ温州」の更なるブランド化を図ります。	H20～24	1,045	カンキツ研究室
62	県単(経常)	気象災害に強い果樹の樹体管理技術の開発	本県の重要な作物であるビワの台風による潮風害の被害を軽減し、災害後の樹勢を早期に回復させる技術を開発します。さらに露地栽培の寒害を軽減するための栽培法を確立します。また、台風により発生する落葉果樹の再発芽や不時開花の要因を解明し、再発芽や不時開花を軽減する樹体管理技術を開発します。	H20～H24	950	ビワ・落葉果樹研究室
63	県単(経常)	長崎オリジナルカンキツの育成	本県の温州ミカン等の既存品種に対する厳しい市場評価と品種の偏りによる出荷の集中を解消するため、出荷の分散と高品質果実の販売を可能とする本県オリジナル品種を育成します。	H21～25	962	カンキツ研究室
64	県単(経常)	気候温暖化に対応したカンキツ栽培技術の開発	気候温暖化での夏秋季の高温や干ばつによるカンキツの着色不良等の障害果が発生し、果実品質と収量に影響を及ぼしており、農家経営が圧迫されています。そこで、収量・品質低下の軽減技術を開発します。	H21～25	1,486	カンキツ研究室
65	県単(経常)	温州ミカンにおける天敵利用技術の開発	化学農薬を削減しながら温州ミカンの高品質果実を安定して生産するため、ミカンハダニやチャノキイロアザミウマ等に対する天敵防除資材や土着天敵等を活用した防除体系を開発します。	H21～25	1,404	カンキツ研究室
66	県単(経常)	簡易な牛受精卵の透明帯からの脱出補助技術の開発	牛受精卵移植において、透明帯切開技術により脱出を補助し、受胎率向上を図っていますが、高価な器材や顕微鏡下での高度な操作技術が必要です。本研究で、より簡易な脱出補助技術を開発し、受胎率向上を図ります。	H22～24	7,732	大家畜研究室
67	県単(経常)	乳用後継メス牛の効率的生産技術の確立	県内酪農経営基盤の強化に資するため、経膈採卵、体外受精、性別判別技術の技術的課題を改善し、地域の飼養環境に適応した高能力牛の後継メス牛を効率よく生産する技術を確立します。	H21～23	6,220	大家畜研究室

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
68	県単(経常)	乳牛へのパレイシヨ給与技術の確立	酪農家の飼料費の低減と規格外パレイシヨの有効利用を図るため、乳牛へのパレイシヨ給与技術を確立します。	H21～23	1,500	大家畜研究室
69	県単(経常)	肉用牛における早期肥育に適した哺育・育成技術の開発	出荷月齢を24ヵ月齢とする早期肥育技術に適した哺育・育成技術を開発します。 このことにより、早期肥育に適した斉一性の高い良質な子牛づくりが可能となるほか、県産子牛の価格向上により、農家の所得向上につながります。	H20～22	12,000	大家畜研究室
70	県単(経常)	寒地型永年牧草を利用した省力的な栽培技術の確立	飼料自給率向上を図るため、一度播種すれば数年にわたり利用できる可能性がある寒地型永年牧草を活用し、冬から春にかけて経年的に飼料作物を利用する省力的な栽培体系を確立します。	H21～24	1,997	大家畜研究室
71	県単(経常)	新銘柄鶏の肉質改善技術の確立	長崎県在来の対馬地鶏を活用して開発した新銘柄鶏について、おいしい銘柄鶏を生産するために適切な栄養水準を明らかにし、旨味成分等の肉質向上につながる飼料の検討を行います。 これにより、おいしく、かつ地鶏肉とブロイラーの中間価格帯で銘柄鶏を消費者に提供でき、本県の銘柄鶏としてブランド化が図れます。	H20～22	4,394	中小家畜・環境研究室
72	県単(経常)	環境に配慮した肉豚生産技術の開発	養豚において、排せつされるふん尿の処理や発生する臭気対策等、養豚業の維持・発展につなげるため、飼料の栄養成分、特に蛋白水準と繊維成分のコントロールによる豚舎臭気や排せつ窒素量の低減技術を開発します。 また、食品製造副産物等の地域未利用資源を活用することにより、資源循環に寄与することになります。	H20～22	12,392	中小家畜・環境研究室
73	行政要望(一部国庫)	大規模環境保全型農業技術確立	諫早湾干拓地の大規模機械化体系に対応した環境保全型農業の技術確立を図るため、減化学肥料並びに減化学農薬栽培技術を開発するとともに、耕種的除草対策の検討や経営評価等を行います。また諫早農産物のブランド化に向けた加工・業務用需要や高品質化(高食味、高糖度等)に対応した栽培技術を確立します。併せて防風林造成法等の圃場管理技術の検討や気象・土壌等の基礎調査を実施します。	H20～22	13,679	干拓営農研究部門 森林研究部門
74	行政要望	「ブランド・ながさき」農産物育成事業	地球温暖化対策や省エネ対応型の優良系等を探索します。 ①イチゴ炭そ病抵抗性系統の探索 ②トマト黄化葉巻病耐病性系統の選定 ③草花(カーネーション、キク低温開花性)系統の選定 ④温州ミカンの優良系統(浮き皮がない、着色がよい)の探索 育成した品種系統の現地定着を図ります。 ①温州ミカン 選抜された優良系統の現地適応性確認 ②カーネーション優良親株の選抜、ウイルスフリー化	H21～23	5,973	野菜研究室 花き・生物工学研究室 カンキョウ研究室
75	行政要望	花きオリジナル育種農家育成事業	長崎花きオリジナル品種育成他	H20～22	895	花き・生物工学研究室
76	行政要望	新宮農技術確立現地実証	いちご新品種「こいのか」栽培技術、アスパラガスの土壌改良、トルコギキョウ変温管理技術の現地実証試験を行います。	H20～22	198	野菜研究室 花き・生物工学研究室
77	行政要望	長伐期施業体系確立事業	県内のスギ・ヒノキ高齢級人工林を調査し、80年生以上で伐採する長伐期施業に対応した施業技術指針を策定します。	H18～22	1,884	森林研究部門
78	行政要望	水源の森整備林況変化調査事業	森林環境税により間伐整備されたスギ・ヒノキの人工林における整備前整備後の林況変化を調査し、森林環境税による森林整備の有効性を確認します。	H21～23	593	森林研究部門
79	行政要望	農薬安全対策推進事業	ポジティブリスト制度実施に伴い飛散があった場合の調査を行い、対策を検討します。	S47～	160	病害虫研究室 茶業研究室 馬鈴薯研究室 果樹研究部門
80	行政要望	農薬安全使用等総合推進事業	生産現場の農薬残留状況を把握し農薬の適正使用を推進するため、モニタリング調査を行います。	H5～	50	果樹研究部門
81	行政要望	農産物安全確保対策事業	安全で安心な農産物ニーズに応えるため、迅速で高精度な農薬残留分析技術を確立します。	H18～22	1,300	病害虫研究室
82	行政要望	特定果樹の栽培法	今後、需要が見込まれる新規導入果樹について試作を行います。特に近年健康志向で注目されているブルーベリー、パッションフルーツなどを試作し本県での栽培適応性を検討します。	S58～	1,345	ビワ・落葉果樹研究室

No	研究種別	テーマ名	概要	研究期間	予算額(千円)	担当研究室
83	行政要望	せとかの高品質果実連年安定生産技術の組立実証(新宮農実証)	中晩生カンキツ「せとか」の果面障害、隔年結果性、減酸遅れや大玉果生産などの栽培上の課題を解決するため、組立実証により栽培技術を確立します。	H21～22	310	カンキツ研究室
84	行政要望	露地ビワの主要病害虫防除技術の確立(新宮農実証)	ビワの果実腐敗発生を抑制するため、有効な薬剤の選定と防除体系を構築します。また、難防除害虫であるナシマルカイガラムシの発生生態を解明し、効率的な薬剤防除法を確立します。	H21～22		カンキツ研究室
85	行政要望	収量性に優れた寒地型永年牧草ウシブエの現地栽培技術の確立(新宮農実証)	寒地型牧草として有望なトールフェスク(品種:ウシブエ)の地域特性を確認し栽培体系を確立する。	H22～23	68	大畜産研究室
86	行政要望	ハウスミカン栽培におけるヒートポンプ式加温機の導入効果と多目的利用法の検討	ハウスミカンの新たな暖房システムであるヒートポンプ式加温機の重油削減効果と果実品質への影響を明らかにします。また、冷房機能を活用した着色向上や浮き皮軽減技術を確立します。	H21～23	318	カンキツ研究室
87	行政要望	諫早湾干拓緊急対策事業(土壌塩素イオン遡上試験)	干拓土壌における塩素イオンの遡上の可能性について試験する。	H22	5,746	土壌肥料研究室 干拓
88	行政要望	次世代農業実証事業に係る経費	電動農耕機の実用実証と併せて二酸化炭素排出低減が期待されているヒートポンプ等を活用した次世代型園芸施設について調査・研究を実施する。	H22	500	干拓営農研究部門
89	行政要望	受精卵移植普及定着化事業(卵子の凍結保存法の確立)	牛の受精卵移植技術を効率的な改良増殖技術として一層普及定着させるため、複数県参加の共同試験により、ガラス化を主体とした生存性の高い卵子保存法を検討し、受精卵の作出効率の向上を図ります。 そのため、各種保存法について、保存後の卵子の生存性、発生能、受胎性の比較検討などを行います。	H20～22	1,000	大家畜研究室
90	行政要望	飼料作物優良品種の選定普及	農家が栽培する自給飼料の収量向上および粗飼料の安定確保を目的として、トウモロコシ、ソルガム、飼料用麦、イタリアンライグラスの市販品種について、本県における適応性を検討します。 また、当センター3カ年の試験成績および現地1カ年の試験成績をもとに、本県の推奨品種を選定します。	S51～	1,000	大家畜研究室